

文学部 教授 野口武悟

新入生のみなさん、専修大学へのご入学おめでとう。

さて、みなさんは、科学的にものごとを捉えているだろうか。こう問うと、「私は“文系”だから科学的と言われても苦手で…」との答えが多くの人から返ってきそうである。しかし、こうした答え自体が科学的ではない。“文系”“理系”という分け方には客観的な根拠はない。単に、数学や理科の科目が得意でない(たまたまテストで点数が取れなかった)、あるいは嫌い(何となく相性が良くない)だから“文系”と称しているだけの主観である。“文系”だからといって、科学的でなくてもよいわけではない。

「科学」というのは、“理系”という意味ではない。誰にでも再現できること、データなどの根拠にもとづき客観的に明らかにすることを意味する。大学は学問をするところである。そして、学問は科学的なものである。これには、いわゆる“文系”“理系”は関係ない。“文系”と思われている文学や歴史学などは人文科学と総称されるし、法学や経済学、社会学などは社会科学、心理学や教育学などは人間科学といわれる。したがって、みなさんがどの学部にも所属していようと、各科目の学修には科学を意識してのぞんでもらいたい。

印象や思い込みによる主観だけでものごとを捉えようとすると思わぬ失敗をすることもある。例えば、怪しげな高額の商品を怪しいとも思わずに買わされてしまうなど。科学的であることは、みなさんの日常生活にも社会に出てからの仕事にも大いに役立つ。そのことは、本書を読めば、きっと理解できるだろう。

科学的とはどういう意味か / 森博嗣著
幻冬舎, 2011.6(幻冬舎新書)
本館: K/401/Mo45
神田分館: /401/Mo45

